

市民活動情報

市民活動情報 vol. 62 2014. 12

発行 北海道立市民活動促進センター

[公益財団法人北海道地域活動振興協会]

〒060-0002

札幌市中央区北 2 条西 7 丁目

道民活動センタービル(かでる 2・7) 8 階

TEL.011-261-4440 FAX.011-251-6789

E-mail:center@do-shiminkatsudo.jp

http://www.do-shiminkatsudo.jp/

北海道立市民活動促進センターは、営利を目的としない、地域の様々な課題を自ら解決しようとする道内の市民活動を応援しています。

特集

道内で活躍する市民活動を紹介します

平成 25 年度の当センター事業で、道内で活躍している市民活動団体の活動を集録した「活いきまちづくり～北海道の市民活動レポート 2013」(当センターホームページで閲覧できます)を作成しました。その一部を抜粋して順次ご紹介しています。

今回は「NPO 法人ドッグレスキューしおんの会(浜中町)」「蘭歴建見会(室蘭市)」の 2 団体の活動をご紹介します。

NPO 法人ドッグレスキューしおんの会 (浜中町)

～ 一人の命も一匹の命も同じ大切な命 ～

ペットは家族の一員と言うのは今や常識といえる。ペットを飼う家庭はますます増え続けているが、「ペットが病気になってしまった」、「しつけができない」、「世話が大変になった」といった理由などで捨てられたり、保健所に持ち込まれるケースも少なくない。飼い主とペット双方の高齢化など、人とペットをとりまく環境を改めて見直す時期にきている。

「NPO 法人ドッグレスキューしおんの会」は、一匹でも多くの犬の命を救いたいという志のもと、2006 年 8 月に設立された。捨て犬や迷い犬、野犬が生んだ犬が野生化しないように保護し、飼い主を探す活動を行っている。

代表の福澤智子さんが愛犬、アインシュタインと初めて散歩に行った犬たちが活動を始める原点となった。

2002 年 2 月 6 日、赤ちゃん犬 7 匹が米袋に入っており、捨てられているのを雪の中からアインシュタインが見つけた。凍死寸前だったが、家に連れて帰って暖めたところ 7 匹全てが息を吹き返し、そのうちの 1 匹を星子と名づけ飼うようになった。星子が隣で安心して寝ている姿を見ているうちに、「私の知らないところで沢山の犬たちが捨てられたり死んだり

している。可哀想に死んでゆく犬たちをなんとかしたい」と思ったそうだ。

2006 年の春、子犬が 3 匹保健所につれていかれる寸前に出くわし

た。福澤さんはその子犬を引き取り飼い主を探した。

星子を拾った時からずっと保護活動すべきか迷っていたが、「迷っている間にも次々と命を失っている犬たちがいると思ったら、迷ってはいられないと思いました」。

その年の 8 月 7 日に同じ志を持つ数人で会を立ち上げた。2007 年 2 月、野犬の雌犬 5 匹に 25 匹もの子犬がいると聞き、犬たちを保護し、飼い主探しに奔走した。当初は、啓蒙活動のみを行うことにしていたが、このことがきっかけで保護活動と飼い主探しも開始した、

2010 年 12 月には NPO 法人として認証された。



保護犬も募金活動に役買っている

■ 好評の犬のお散歩体験

会は、獣医、介護士、酪農家ら理事を含めた中心メンバーが運営会員になっている。「一時預かりボランティア」といって保護犬に飼い主が見つかるまで、自宅で犬の世話をするボランティアもいる。

一般会員は、飼い主を探すための犬の譲渡会や保

NPO 法人ドッグレスキューしおんの会（浜中町）

護犬の世話などの手伝いをする。賛助会員は、年会費 1000 円(中学生以下 500 円)を払い、犬の食事代や避妊・去勢手術など金銭面で援助。法人会員は、活動に賛同した企業が会費 1 口 1 万円で支援する。会員はあわせて現在 80 人ほど。

保護する数は年間 25～30 匹ほど。保護した犬たちは譲渡会やホームページ、イベントで飼い主や会員を募る。飼い主が決まるまでの間は、一時預かりボランティアやメンバーが犬たちの世話をする。

飼う環境が整っていて最後まで責任を持って飼育することと、避妊・去勢手術を条件に引き取ってもらう。



わんわん思いやり教室では、子供たちもスタッフとして活躍

イベントは浜中町近隣の町でのお祭りなどに参加して行っている。10月6日に北海道立厚岸少年の家・ネイパル厚岸で開催された「動物ふれあい祭」では、「わんわん思い

やり教室」や子犬の譲渡会などを行った。

福澤さんをはじめ、会のメンバーらが犬と仲良くなる方法を、元は保護犬でメンバーの愛犬となった犬たちと共にわかりやすく説明した。大人気の犬の散歩体験では、親子連れなどが、犬を連れて敷地内での散歩を楽しんだ。

■ 被災ペットのための募金活動

2013 年 9 月 22 日の浜中町牧場祭のフリーマーケットでは、1 万 1400 円を売り上げた。被災地支援のために、募金活動や被災した動物の写真展も行った。犬たちの協力によって募金 1 万 6459 円が集まった。この募金は、被災ペットの支援や救護活動をしている仙台市のドッグウッド(被災犬保護施設)に寄付している。

「縁あって岩手県に、以前保護した犬のタミコがいます。大震災の日に津波で家が流されてしまいま

したが、飼い主さんがタミコを抱いて命からがら逃げてくれました。これからも被災したワンちゃんたちのために募金活動を続けていきたい」と福澤さん。会の活動資金はこうしたイベントでの収益金や募金、会費が当てられている。活動については、影で支援している人もいる。

「あしながおじさん」と呼ばれているその人物

は、町内の農家の男性らしく、名前を明かさず、浜中町の農協を通じて毎月のドッグフードの寄付やイベントがあるたびに犬用のおやつを届けている。

今後について「活動の拠点がほしいですね。飼い主たちが集まったり、ドッグランがあったり犬の道の駅のようなものが作りたいですね」という。「浜中町は自然豊かで住みやすい所なので、犬連れの旅行者がきて宿泊ができる場所にするのもいいかもしれない」と夢は広がる。

「犬は福澤さんにとってどんな存在か？」と質問をすると、「飼い犬のリオンは野犬の子ですが、子犬の時に人に乱暴されたせいで、今でも唸ったりすることがあります。『大丈夫だよ』と話しかけるようにしたら私の傍に来て甘えるようになりました。今ではそのリオンが保護犬のまとめ役になっていて、本当に助かっています。かわいそうな犬たちの命を救うために始めた活動ですが、犬の愛情や優しさに私の方が救われているような気がします」と福澤さん。

「犬は本来優しい動物。人も犬のように優しい気持ちを持てば、社会はもっと幸せに満ちていくと思うんですよ」。



フリーマーケットでは、メンバーが持ち寄った手作りのグッズが販売された



震災の記憶を風化させないために被災ペットの写真展も行う

■ 連絡先

〒088-1366 厚岸郡浜中町茶内旭 1 丁目 20 番地
NPO 法人ドッグレスキューしおんの会
代表 福澤 智子

TEL : 090-9516-4746

FAX : 0153-65-2604

Email : zion_hamanaka@yahoo.co.jp

zion_hamanaka@docomo.ne.jp

URL: <http://dogrescuezion.ninja-web.net/>

蘭歴建見会（室蘭市）

蘭歴建見会(室蘭市)

～「室蘭らしさ」を後世に～

国道 36 号線を札幌から 3 時間ほど車で走ると時の刻みを積み重ねてきたように薄茶色になった街並みが見えてくる。明治の開港以来、工業都市として発展し、「鉄のまち」と言われた室蘭だ。現在は人口 9 万人ほどの街だが、かつてほどではないにしても今でも鉄の城下町としてその輝きは失せていない。

この室蘭地域の歴史的建造物を調査、活用、保全する事業を行い、歴史の風化を防ぐとともに教育や観光の資源として魅力あるまちづくりに寄与することを目的にしているのが、市民団体「蘭歴建見会(らんれきけんけんかい)」だ。

発足したのは 2013 年 7 月。会員は、正会員、賛助会員あわせて 15 人。中心メンバーは、室蘭工業大学の助教、観光ツアーガイド、市議員など、建築や観光に関心を持つ 8 人。活動資金は、会員からの年会費 1 人 1000 円と公益財団法人北海道地域活動振興協会の平成 25 年度地域活動支援連携事業に採択されたことによる助成金。

代表は 1 級建築士で室蘭市出身の吉田幸恵さん。室蘭で生まれ育ち、高校卒業後に大学進学のため関西へ。進学を決める時期が自宅の新築と重なったこともあってインテリアに興味を持ったという。その分野での進学を希望したが、インテリアだけの学科がなかったため建築学科を選んだ。大学卒業後の 3 年間は関西で就職、結婚・出産を機に退職し室蘭から移った登別市の実家に戻り、2 人の子供の子育てをしながら 1 級建築士の資格を取得した。個人で建築事務所を開いたものの「自分の視野の狭さや知識不足を痛感した」と吉田さん。「色んな場所に行って、沢山の人と出会って建築への興味をより深めたいという気持ちになりました」と言う。

■ 故郷に物足りなさを感じていた子供時代

老朽化した建物の大部分を再利用しながら、用途変更などを行うリファイン建築を行う建築家の青木茂さんの講演会を聴いたことで古い建築物にも興味

の幅が広がった。「古い建物を壊して、新しく建て直していくだけではいけないと感じました。建築の仕事では、地元の材料で地元らしい建物を造ろうという動きがありますが、室蘭らしさとは何かを明確に答えられるものが自分の中にはなくて、それを探したいという思いもありました。いつか室蘭らしさを残せるような活動をしたと思った」と吉田さん。

3 月に行われた「ぷらぷら室蘭 2013」（主催：室蘭観光推進連絡会議）に参加したことでその思いはより強いものになった。これは古い建物を訪ね歩くことで、港まち室蘭の魅力を再発見する街歩きイベント。その時に、室蘭市の蘭西地区といわれる商家や商店街など古い街並みを歩き、改めてその良さを知ったという。

子供時代はその良さがわからずいつも物足りなさを感じていたそうだが、時が過ぎ自身も年齢を重ねたこともあって街並みが発する息遣いのようなものに触れることができたそう。外から移り住んだ人たちの話を聞くうちに地元愛が芽生え、「子供を育てていると山にも海にもすぐ行けて、買い物も不自由なくできるこの環境がとても恵まれていることに気づきました」。

今なら室蘭の魅力は？と吉田さんにたずねてもすぐに答えることができる。「ある人に言われて気づいたのですが、海と山が一度に見える独特の地形が私には一番の魅力だと思います」

■ 街歩きイベントに応募数をこえる参加者

SNS のフェイスブックでつながりがあり、同じような市民活動に熱心だった現事務局長の三木真由美さんとやりとりしているうちに意気投合、そこから活動が始まった。

9 月には、絵や写真で記憶に残す室蘭歴史的建造物アートプロジェクトを開催。歴史的建造物の絵画や写真、映像などの作品を市民から公募した。応募数は 7 人から 50 点ほど。作品は併せて開催されたむろらんカルチャーナイトの会場で展示された。

吉田さんが会を設立するきっかけとなった「ぷらぷら室蘭 2013」の第 3 弾は室蘭観光推進連絡会議

蘭歴建見会（室蘭市）

との共催企画で開催した。

11月2日の当日には、小学生からお年寄りまで幅広い年齢層の男女 62 人がスタート地点の旧室蘭駅舎に集まった。北海道大学名誉教授・NPO法人歴史的地域資産研究機構代表理事の角幸博さんらによる解説つきで、今も明治・大正・昭和時代の古い建物が現存する中央町・海岸町界隈を巡った。



街歩きイベントで路地裏も歩いた

民家の間の狭い路地裏に入ったり坂道などを上ったり、参加者は2時間かけた街歩きにも疲れをみせる様子はなく、市内在住の2人組の女性からは「ここ映画館だった？

以前は病院だったよね。すごくいい建物だったのに壊されてもったいない」「空き家が多くなったね。しばらく歩かないと何があったか忘れる。こうして街中を歩くのはいいね」との声も聞かれた。街歩きの後には講演会「守ることは創ること」が開催され、様々な歴史的建造物の保存までの秘話などが前述の角さんから紹介された。



ガイドの解説に熱心に聴き入る参加者たち

同月30日には、帝国ホテルの建築にも携わり北海道を代表する建築家である田上義也氏が設計した室蘭ユースホステルの見学会を行った。1972年に開業されたこのユースホステルは、イタンキ浜を見下ろす高台に建ち、船をイメージさせる外観と白い壁が特徴。見学会では、参加者30人を藤当満ペアレント（支配人）が案内した。



室蘭市旧室蘭駅舎は市の歴史的建造物

この建物を含め、旧室蘭駅舎や栗林商会の蕙山苑なども吉田さんお勧めの建物だそう。

こうした建築物に関する勉強会のほか、今後、街歩きイベント

やアートプロジェクトを続け、そこで会員を募ったり、地元の人々との交流を図る考え。

「古い建物を壊し、画一的なチェーン店が建てられてしまうと、どこに行っても街の顔が似通ってしまい室蘭らしさがなくなってしまう。室蘭の繁栄を支え、ここに住む人々を彩ってきた建物を残した街づくりを市民の方と一緒に進められるような団体にしたい。また、残したいような古い建物をみつけたときには、一度私たちに相談していただければ嬉しいですね。時代を見つめてきた建物がただ壊されるのは残念です。何か新たな価値を見出して別の使用方法などをアドバイスできるようにしたい」と吉田さん。



室蘭歴史的建造物アートプロジェクトでは作品を旧室蘭駅舎に展示

観光客だけでなく室蘭を愛する市民に対して、会員一人ひとりが建物の謂れ(いわれ)や価値について説明できるようにして室蘭の活性化につなげていく考えだ。

セピア色の室蘭の街は時刻によって色を変える。夕暮れのオレンジ色だったり、ライトアップされた工場群の白い光芒だったり。歴史的な建造物の数々は様々な色に溶け込みながら、じっとそこに佇んでいる。鉄の時代の先導役となった室蘭に往時の面影はないにしても、過去を知ることが未来を切り拓く鍵になる。蘭歴建見会の地道な活動の積み重ねは、そこに住む人々に潤いをもたらす愛郷心を育むことに繋がっていくだろう。

■ 連絡先

〒050-0072 室蘭市御崎町 2-9-23

蘭歴建見会

代表 吉田 幸恵

事務局長 三木 真由美

TEL: 090-7519-9237

FAX: 0143-23-0165

Email: mayumi_nakayama@nifty.com

URL: <https://www.facebook.com/muroranrekiken>

センターインフォメーション

◆センター主催講座等のご紹介◆

◆ 協働促進講座 ◆

「協働2. O『総働』と『小規模多機能自治』 で地域とくらしを守るために」

10月2日(木)、「IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]」代表の川北秀人さんを講師に迎え、今後、北海道でも人口が減少する中、高齢者の人口は増加する状況が予想され、その中で協働を進めるための課題や手法、「総働」について学ぶ講座を開催しました。

参加者からは「協働について実例を多数ご紹介頂いて、具体的によくわかりました」「各自治体の事例が多く参考になった」「次にすべきことのヒントが見つかった」などの感想がありました。

◆ NPO法人設立基礎講座 ◆

6月24日(火)、9月24日(水)、12月13日(土)、「NPO法人旧小熊邸倶楽部」理事長の東田秀美さんを講師に迎え、NPOに関する基礎知識とNPO法人になるために必要な要件や書類、手続きなどについて学ぶ講座を開催しました。

参加者からは「基礎から詳しく丁寧に説明してくれたので、とてもわかりやすかった」「経験をもとにしたお話が具体的に良かった」などの感想がありました。

なお、この講座は、平成27年2月26日(木)にも開催します。只今、受講者募集中です。



協働促進講座 (H26. 10. 2)



NPO 法人設立基礎講座 (H26. 12. 13)

当センターでは、市民活動に関する 疑問・質問に相談員がお答えしています。

「NPOって何ですか?」「ボランティア募集の情報を知りたい」「助成金に関する情報を得るにはどうしたらいいの?」「市民活動団体の運営についてアドバイスを受けたい」「現在の活動団体をNPO法人化したい」など、市民活動に関わる相談にお答えします。

来館または電話、FAX、メールなどで、お気軽にご相談下さい。

・TEL: 011-261-4440

・FAX: 011-251-6789

・E-mail: center@do-shiminkatsudo.jp

◆当センターのホームページをご覧ください。

① 道内のNPO法人の基本情報や定款、事業報告書、財産目録、貸借対照表、活動計算書/収支計算書などの情報が当サイトで閲覧(PDFファイル)できます。

サイト内の「北海道市民活動団体情報提供システム」をクリックし、市民活動団体検索の「活動分野検索」もしくは「地域別検索」をクリックすることで道内のNPO法人の情報を検索・閲覧できます。

② 交流推進コーナー・印刷機の予約状況(空き状況)が確認できます。

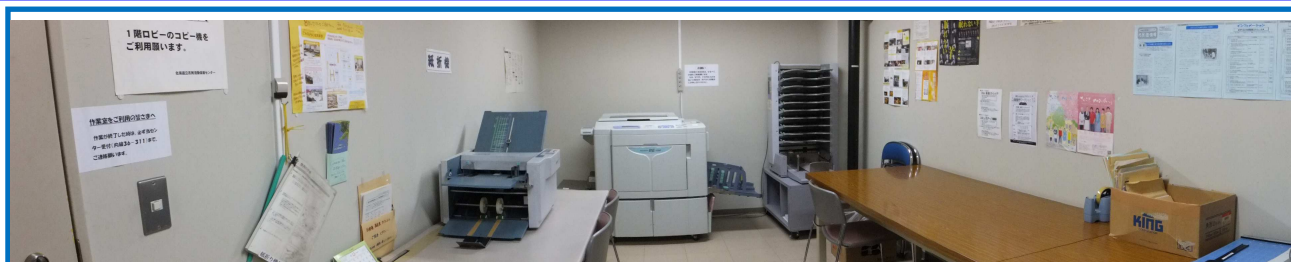
サイト内の施設利用情報の「交流推進コーナー・印刷機予約状況照会」をクリックし、閲覧したい日付に合わせ「表示」をクリックして下さい。

なお、予約は電話でのお申し込みになります。

◆ 道立市民活動促進センター＆スタッフ紹介 ◆



北海道立市民活動促進センターでは、NPO やボランティアなど市民活動の場・交流の場として、打ちあわせスペースを設置し、パソコン・スキャナー・プリンターのご利用、資料展示などの他、市民活動や NPO 法人についての相談コーナー、会報やチラシ作成に欠かせない、印刷機・紙折り機・丁合機・裁断機などもご利用いただけます。スタッフ一同、皆様のご利用を心よりお待ちしておりますので、お気軽にお越しください。



事務局次長 小椋 修次

市民活動を応援するセンターです。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



センター所長 葛西 伸直

利用者の立場に立ったセンター運営を目指しています。よろしくお願いいたします。



市民活動相談員 佐藤 ゆみ子

法人設立やその運営等についての相談を担当しています。よろしくお願いいたします。



市民活動相談員 東田 秀美

私たち相談員で、市民活動についての様々な相談に対応して参ります。



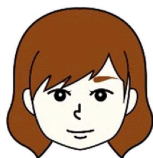
市民活動相談員 相馬 契太

10 月から新しく相談員に加わりました相馬です。2002 年に、「訪問型フリースクール漂流教室」という NPO を立ち上げました。ほかに中学校で別室登校の子の相手をしたりもしています。



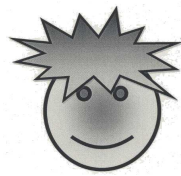
宇野 英樹

はじめまして。8 月から勤務している宇野と申します。よろしくお願いいたします。



中村 知佳

今年の4月から働いています。受付にいますので、パソコンや印刷機の使用いかた、センター内で困ったことなどがあれば気軽に声をかけてください。



成田 真由美

趣味多数：音楽鑑賞（民族音楽）、演劇・ダンス鑑賞。ここ数年は美術にも興味が湧き、美術館・ギャラリー巡りも楽しんでいます。興味の幅が広がる一方で、どうして良いのかわかりません。



森谷 雅美

勤務日は多くありませんが、利用者のお役に立てるように取り組んで参ります。

◎ 北海道立市民活動促進センターのホームページ

では、助成金情報や北海道庁からの役立つ情報などを随時更新中です。ぜひアクセスして下さい。

<http://www.do-shiminkatsudo.jp/>